

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>						<b>4.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル	劇場部分の室内騒音レベルを目標35dB(A)とした	4.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>4.6</b>	0.47	-	-	4.6
2.1 室温制御		4.6	0.50	-	-	
1 室温	夏期26℃、冬期22℃	4.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	窓ガラスSC=0.57、U=2.9W/(㎡・K)、外壁U=0.957W/(㎡・K)	5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	マルチユニットヒートポンプ方式、冷暖が可能な空調システム、40㎡程度にゾーニング	5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	夏期は冷却コイルによる除湿で50%を確保、冬期は加湿器による加湿で40%を確保	4.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	客席部に床吹出方式を採用	5.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.4</b>	0.33	-	-	4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を建築材料を全面的に採用。その他VOCにも配慮。	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	管理マニュアルを整備し、CO <sub>2</sub> 濃度の常時監視及びCO <sub>2</sub> 濃度の外気量制御を行い、空気質を適正に維持する	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙にて喫煙所は建物内部に設置しない	5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	3.5
<b>1 機能性</b>		<b>4.0</b>	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	木のイメージを取り入れ、音響と照明の機能を満たした内装を計画	5.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	汚れにくく清掃しやすい内外装とすることを重視した計画とした	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	十分な清掃に関連する諸室を確保	4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	保有水平体力は基準の1.25倍確保	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクト・厨房排気ダクトは100%、ガルバリウムダクトを採用	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機を設置し、受電設備の二重化を採用。また、電源設備の浸水を避けるために地上階に設置	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	光ケーブル、PHS、ケーブルテレビを採用	5.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	1.00	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		圧迫感をおさえ、屋根形状、外壁色は周辺になじむものを採用	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	植栽や広場の計画など、アメニティ性の高い空間計画を行った	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.98	<b>2.6</b>	0.20	-	-	<b>2.6</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI <sub>m</sub> 非住宅 0.95 住宅(専用部) -	<b>2.2</b>	0.50	-	-	<b>2.2</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSの使用	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>4.2</b>	0.20	-	-	<b>4.2</b>
<b>1.1 節水</b>		自動水栓などに加えて、節水型便器等を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>4.4</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水をろ過し、トイレの洗浄水に利用している	<b>5.0</b>	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		ボード(エコラックス・壁材)、タイル(ピエツァOXシリーズ・床材)、フローリング(フロアリュウム・床材)	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		解体の容易な部材、再利用可能な部材を採用	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		タイル用接着剤としPRTR法非該当材料を使用	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン製品の発泡ポリスチレンフォーム(ODP=0, GWP=1)を使用	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3	冷媒		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2低減率3%	<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車場、駐輪場を配置、車の出入口の位置も考慮して設定	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制						
3	日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明の検討に専門家に意見を参考にし、JIS照度基準を満たしている。外部へ漏れる光への対策としては、公告照明の不採用し、点滅不可、稼働不可。着色無しの屋外照明を採用。	<b>4.0</b>	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	ガラス面上部の庇、ガラス面外側のルーバーで反射光を軽減	<b>4.0</b>	0.30	-	-	